

# 「明日を拓く岩手の絆～再構築と発信をとおして～」

令和5年度 第61回岩手県小学校長会総会



第316号

岩手県小学校長会  
代表 佐藤 淳  
事務局 TEL.019(623)8955  
盛岡市紺屋町2の9  
盛岡市勤労福祉会館2F  
印刷 富士屋印刷所



第六十一回岩手県小学校長会総会が、四月二十一日(金)、県下各地区から二百六十二名の会員(会員総数二百七十一名)が出席し、都南文化会館(キャラホール)で開催されました。総会で選出された佐藤淳会長(仁王小学校)は、諸先輩方の教えや震災、コロナ感染症対応等を通して学んだ教訓を踏まえ、これからの教育の創造に向けての「再構築」と教育への信頼を高めるための「発信」を柱として、人と人のつながりを大切にしたいと訴えました。

### 総会Ⅰ

一 開会の言葉

佐藤純子(二戸)

二 国歌斉唱(斉唱)

三 会長代行挨拶

佐藤 淳会長代行

四 感謝状・記念品贈呈

退会者六十五名

五 退会者・退任者代表挨拶

紺野好弘 氏

六 来賓祝辞

(一) 岩手県教育委員会

教育長 佐藤一男 氏

(二) 岩手県市町村教育委員

会協議会

会長 多田英史 氏

※ 代読

副会長 佐美 淳 氏

七 岩手県教育委員会行政説明

(一) 教職員課首席経営指導主

事兼小中学校人事課長

熊谷治久 氏

(二) 学校教育室首席指導主

事兼義務教育課長

武藤美由紀 氏

八 被災地状況報告

佐々木康人(気仙)

### 総会Ⅱ

九 議長選出・署名委員委嘱・

書記任命

十 報告

十一 議事

十二 新役員挨拶

十三 閉会の言葉

佐藤謙司(紫波)

※閉会後に、理事・評議員合同会議並びに各専門部の合同会議が開催されました。



被災地状況報告



総会提案



感謝状贈呈

## 再構築と発信による

## 学校経営の充実



岩手県小学校長会

会長代行 佐藤 淳

本日ここに、岩手県教育委員会  
教育長 佐藤一男様、岩手県市町  
村教育委員会協議会副会長 佐美  
淳様をお迎えし、関係各位の御支  
援、御協力のもと、第六十一回岩  
手県小学校長会総会を開催できま  
すことに深く感謝申し上げます。

昨年度末までに本会を退会され  
ました六十五名の校長先生方に  
は、岩手の教育に多大なる御尽力  
と御貢献を賜りましたことに深く  
感謝の意を表すとともに、これま  
での私ども後輩への温かい御指導  
に対し心から御礼申し上げます。

また、今年度、県小学校長会にお  
迎えた五十二名の校長先生方に  
は、これまでの豊富な教育実践を  
生かし、校長としてお力を存分に  
発揮されとともに、小学校長会の  
仲間としてともに学校、地域、  
県の小学校教育が充実できるよう  
力を合わせて参りたいと思いま  
す。どうぞよろしくお願い致しま  
す。

さて、今年度の総会にあたり、  
校長として、また本会会員とし

て、大事にしたい二つの言葉を述  
べさせていたいただきたいと思いま  
す。一つ目の言葉は、「再構築」  
です。ここ数年新型コロナウイルス  
感染症拡大を受け学校現場は大き  
な影響を受けてきました。私たち  
校長は、これまで前例がない多く  
の事態に対し、子どもを中心に何  
が最善かを判断しながら教育活動  
を進めてきました。一方で、新型  
コロナウイルス感染症拡大の影響  
は、人と人とのつながりという面  
でも大きな禍根を残しています。  
学校においても子ども同士の関わ  
り、学校と家庭との関わり、教  
職員同士の関わりなど、これまで  
当然であった顔を合わせてのコ  
ミュニケーションが難しくなるな  
ど、その影響は様々な部分に及ん  
でいます。また、学校外に目を向  
けても、各学校が集まったの発表  
会や学習会に加えて教職員が参集  
しての研修機会も減少し、これら  
の影響が既に様々な形で表れてい  
ることを感じている校長先生方も  
多いことと思います。こうした新

型コロナウイルス感染症拡大の影響  
も、今年度になりマスク着用が個  
人判断になるとともに、五月か  
らは感染症の扱いが第五類に移行  
するなど、新たな段階に進むこと  
が予想されます。この時期におい  
て、私たち校長は、新型コロナウイルス  
感染症拡大防止の手立てを講  
じながらも、アフターコロナと言  
われる新たな時代において、人と  
人とのつながりを大事にした関係  
づくりやコロナ前の状態にただ戻  
すのではなく、これからの学校教  
育にふさわしい教育活動の創造な  
どの「再構築」に取り組んでいく  
重要性を感じています。その意味  
において、今年度は、これまでの  
取組を土台にしなが、新たな学  
校経営の在り方を考え、再構築し  
ていく大事な一年になるものと考  
えます。そのためにも、私たち校  
長会の機能を最大限に発揮し、互  
いの学校経営のよさに学び合うと  
ともに、課題に直面した際には、  
共に考え課題解決のために助け合  
う関係づくりも大事にして参りた  
いと思います。

二つ目の言葉は、「発信」です。  
現在、教育現場は多くの課題を抱  
えています。先に述べた新型コ  
ロナウイルス感染症対策はもち  
ろん、現学習指導要領の具体化  
に関わる子ども主体の授業づく  
り、不登校児童や特別な支援を要  
する児童の増加に伴う対応、心身  
に不調を抱える教職員への対応や  
不祥事の撲滅などに加えて、東日

本大震災被災地区においては、震  
災に起因する新たな課題に直面し  
ています。私たち校長は、こうし  
た課題解決に向け、真摯に取り組  
むとともに、どのような困難な状  
況の中でも、決して下を向くこと  
なく今できる最善の方法を考え、  
子どもそして教職員を大事にした  
学校経営を進めて参りたいと思  
います。振り返れば、昨年度、県小  
学校長会が行った東北連小岩手大  
会、県小中学校長会研究大会釜石  
大会の開催では、校長が自ら学  
び、校長同士のつながりを大事に  
し、困難な状況でも最大限の取組  
を行うことの重要性を具体的な行  
動で発信し、多くの賞賛の声をい  
ただきました。更に、十二年前の  
東日本大震災発災の際には、県小  
中学校長会が行政機関と連携し、  
横軸連携をはじめとした多くの取  
組を行い、その成果は今でも確実  
に本県教育の復興に息づいていま  
す。こうように私たち校長は、困  
難な状況の時こそ、常に前を向  
き、子どもたちと教職員に希望と  
夢を発信できる存在でありたいと  
思います。そのためにも、子ども  
たちが学校に来ることが楽しいと  
思える学校、教職員が安心して、  
互いに感謝し支え合う職場づく  
りを進めて参りたいと思います。ま  
た、学校がこうした多くの取組を  
行い、成果を挙げていくことを保  
護者、地域に積極的に発信するこ  
とで、学校に対する信頼を高め、  
そのことが教員を目指す学生の増

加にもつながり教員不足問題の解  
決の手がかりになるなど、今後の  
教育の発展につながると考えま  
す。

最後に、私は、今年度で校長職  
最後の一年を迎え、改めて「教育  
のすばらしさ」と「校長職がやり  
がいのあるかけがえのない仕事で  
あること」を再認識しています。  
始業式、入学式の日、進級や  
入学のうれしい気持ちを抑えきれ  
ずに笑顔で小走りに学校に来た子  
どもたち、その子どもたちのため  
に、時間のない中、心のこもった  
準備をし、当日、笑顔で迎えた教  
職員の姿を目にした時、校長であ  
る私は、この子どもたちと教職員  
のために、最善を尽くし、子ども  
と教職員を大事にした学校経営を  
していく決意を新たにしました。

また、校長という、自分の能力を  
最大限発揮できるやりがいのある  
仕事ができることにも改めて感謝  
の気持ちを深くしたところです。  
この会場にいる私たち校長は、各  
校の最高責任者として、子どもと  
教職員を大事にした学校経営の充  
実を図り、校長会のつながりを大  
事にしながら、互いに学び合い、  
助け合い、本県の学校教育の発展  
のため、努力していくことを確認  
し合いたいと思います。

結びに、総会開催にあたり、御  
協力、御尽力いただいた皆様には  
深く感謝申し上げます。

祝辞(要旨)

岩手県教育委員会  
教育長 佐藤 一男様



第六十一回  
岩手県小学校  
長会定期総会  
の開催にあたり、岩手県教  
育委員会を代表し、一言お祝い  
申し上げます。

まずもって、校長先生方には、各学校の最高責任者として日々学校経営に御尽力いただいていることに、心から感謝を申し上げます。また、新型コロナウイルス感染症に対する対応については、約三年間にわたり校長先生のリーダーシップのもと、教職員一丸となつてきめ細かな配慮を行いながら、子どもたちの健やかな学びの保障に向けて取り組んでいただきました。新型コロナウイルス感染症は、五月から五類感染症に移行となりますが、引き続き地域の感染状況に応じた感染症対策を講じながら、学校教育活動の充実に向けた取組をお願い致します。この度、新たに校長の職に就かれた皆様には、本県の教育に新しい風を吹き込み、子どもたちの幸せのために、情熱と創造性をもって、学校経営に思う存分力を発揮されますよう御期待申し上げます。

県では、「いわて県民計画(二〇一九〜二〇二八)」が五年目を迎え、本年度から第二期

アクションプランがスタートしました。教育分野では、将来の予測が困難な時代において、子どもたち一人ひとりに未来の創り手となるために必要な資質・能力が求められていることから、教育におけるDX(デジタル・トランスフォーメーション)や学校と地域の「共創」による学び等を進めて参ります。また、多様性と包摂性が重視される社会の中で、子どもたちが多様な価値を認め合い、様々な人々と協力していく人間性や社会性の育成を目指します。各学校におかれましては、学校教育指導指針の中に示しております指標を御確認いただき、目標の達成に向けて取組の充実をお願い致します。加えて、昨年度開設した「いわて幼児教育センター」では、「いわて就学前教育振興プログラム」に基づく事業を推進しながら、引き続き就学前教育の質の向上と小学校教育への円滑な接続を図って参ります。各小学校においては、幼児期の教育において育まれた資質・能力をとらえ、子どもたちが主体的に自己発揮しながら学びに向かうことが可能になるよう、就学前教育との連携をより一層深め、低学年からの学びの基盤づくりを推進していただきたいと思います。

さて、令和三年十一月に、中央教育審議会より「『令和の日本型学校教育』を担う新たな教師の学びの姿の実現に向けて」の審議まとめが示されました。県では、教員免許更新制度が発展的解消となることを受けて、いわての教員のあるべき姿を実現する研修体系の在り方を検討し、新たな「教員等育成指標」に基づく研修制度を構築致しました。校長先生方におかれましては、これまでも、教職員の資質・能力の向上、キャリア形成に向けた指導・支援について、お力を発揮していただいておりますが、対話等を通して適切な目標設定や現状把握など、学び続ける教師の人材育成に向けて、引き続きお力添えいただきますようお願い致します。

これからの時代は、多様な個人のそれぞれの幸せや生きがいの実現に向けた教育が求められており、皆が同じことをできるようにするといった「そろえる教育」から、多様性を認めつつ一人ひとりの可能性を引き出す「伸ばす教育」への転換が必要と言われております。各学校におかれましては、子どもたちが本来もっている学びの力を信じて、その力を引き出せる環境を整え、教師は伴走者として子どもの学びを支え、「子どもを主体にした学び」が一層推進されることを期待しております。

結びとなりますが、今後とも、岩手の子どもたちのより一層の成長のために、御尽力いただくことをお願い申し上げます。あわせて、県小学校長会のますますの発展を御祈念申し上げます。祝辞と致します。

祝辞(要旨)

岩手県市町村教育委員会協議会  
会長 多田 英史様  
(代読 佐美淳様)



令和五年度岩手県小学校長会総会が、盛大に開催されますことを、岩手県市町村教育委員会協議会を代表し、お祝い申し上げます。御参会の皆様には、本県の学校教育の充実と発展に御尽力いただいておりますことに、深く感謝申し上げます。また、この三月をもって御退職されました皆様は、これまでの御労苦と御功績に対し、感謝と敬意を表しますとともに、今年度新たに校長に昇任された皆様に対し、お祝いを申し上げます。

私たちの社会に多大な影響をもたらした新型コロナウイルス感染症は、間もなく五類感染症に引き下げられ、ウィズコロナからアフターコロナへと生活が変わるようになっていきます。これまで、マスクの着用により、子どもたちの素顔をなかなか見ることができませんでしたが、これからは可能な限りマスクを外し、校長先生方自らが率先して子どもたちに笑顔で接し、笑顔溢れる学校経営に御尽力ください。

さて、県教育委員会では、未来の岩手を支える人材育成を目指し「いわての復興教育」を、力強く推進しております。岩手の復興・発展、そして、地域を支える人材

を育成するために、校長先生方のリーダーシップの下、各学校や地域の実情に応じた様々な活動に取り組まれているものと存じます。また、現在各学校では、学習指導要領の趣旨を踏まえ、GIGAスクール構想の下での一人一台端末の活用により、全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びといった、創意あふれる授業の実施に取り組んでいただいております。一方、働き方改革に応じた業務改善や教職員の健康確保等、教育や学校を取り巻く状況は大きく変化しております、広範にわたる対応が求められております。

こうした中にあつてもなお、私たちがなすべきことは、保護者や地域の信頼に応える確かな教育を実現し、子どもたちに、生きる力を育むことでもあります。校長先生方には、教職員一人一人が、教育に携わること責任と誇りを持ち、豊かな人間性と、深い専門性を発揮して、教育活動に邁進するとともに、子どもたちが将来に向かって自己実現が果たされるよう、一層の指導をお願いするものであります。教育現場の様々な課題に対して、指導力を発揮いただき、開かれた学校経営を推進し、学校・家庭・地域が協力して、明るく、賢く、たくましい子どもたちの育成に御尽力いただきたいと思います。

結びに、本会のみならずの発展と皆様方の一層の御活躍と御健勝を祈念し、祝辞と致します。

行政説明の概要



教職員課首席経営指導主事兼小中学校人事課長 熊谷 治久 様

教職員の定期人事異動等の状況について

- 1 人事関係の概略 ( ) 内は昨年度比 異動総数は 1,283 名 (-59)
(1) 管理職 校長昇任 82 名 (-14 名) 副校長昇任 67 名 (-25 名)
(2) 新採用 小学校教諭 123 名、中学校教諭 74 名、養護教諭 17 名、栄養教諭 0 名 (+24 名)
2 少人数教育の推進について
3つの柱「少人数学級」「少人数指導」「サポート推進事業」を中心に推進していく。
3 小学校高学年における教科担任制の推進について
専門性の高い教科指導を行い、教育の質の向上を図るとともに、多面的な児童理解、教員負担軽減を進めるため高学年における教科担任制を推進する。各校の実情に応じ、できることから取り組んでいただきたい。
4 暫定再任用・定年延長について
(1) 暫定再任用 536 名(29時間 194 名、フルタイム 342 名)(+90 名)
(2) 定年延長に伴う各種制度の理解を深めていただき、適切な対応をお願いしたい。
5 人材育成について
副校長や主幹教諭の受験資格の年齢引き下げを行うことから、若手教員の人材育成をお願いしたい。また、教員の資質向上に関する指標を改訂した。ライフステージごとの教員の振り返りや、面談での活用をお願いしたい。
6 不祥事の未然防止について
懲戒処分の件数が昨年度は大きく増加した。飲酒運転を含む道交法違反に対する指導の徹底をお願いしたい。体罰や不適切な指導に関しても、児童生徒に寄り添い、励ましながら、できるようになったことを認める指導を推進いただきたい。
7 働き方改革の取組について
学校運営上、必要不可欠なものと削減できるものを見極め、児童と教職員が満足できる環境づくりを進めていただきたい。

本県の義務教育行政推進上の現状と課題について

学校教育室首席指導主事 兼義務教育課長 武藤美由紀様



各学校で取り組む教育内容の根拠には、「多様性と包摂性のある学校文化の醸成と『子どもを主語にしたい学び』の実現」を柱と据えていく考え方が一層重視される。これまで、一人ひとりの良さ、内在の可能性を大切にしながら取り組んできたが、誰も経験したことのない人口減少社会、超高齢社会、情報化社会の到来に向け、誰一人取り残さない持続可能な多様性と包摂性のある社会の担い手となる子どもたちを育てていく必要がある。そこで、子どもたち一人ひとりが、自分のよさや可能性を自覚するとともに、自分と同じように周りの人々も大切に受け止め、他者を価値のある存在として尊重する気持ちをもちながら共生社会を実現していくために、人と人の関わりを大切に、利他の心を育みながら、多様な価値観を認め、包摂する岩手の教育を推進して参りたい。

二期アクションプランに基づく教育施策の推進

第二期アクションプランの初年度を迎えた。策定にあたり、何が足りなくて達成できなかったのか、PDCAサイクルにつ

なぎにくいという第一期アクションプランの反省を踏まえ、学校の取組としての指標の設定と改善を図ったところである。また、質的な向上に向けて、根拠となる調査等を示しながら、積極肯定回答した学校の割合を指標に掲げた項目も複数位置付けた。学校教育指導指針で確認をお願いしたい。
二 資質・能力ベースの子ども主体の学習(一人一人の子どもを主語にする学び)の実現
新型コロナウイルスの五類移行により、新型コロナウイルスとの共生での学習指導となる。子どもたちの学びについては、学習指導要領や「令和の日本型学校教育」の趣旨の実現に向けて、子ども主体の学習が実現されるのが重要である。県教委としては、子ども主体の学習の保障のための授業改善と学校経営の充実を目指すため、教育課程協議会やブラッシュアップ事業等を通して、「一人ひとりの子どもを主語にする学び」及び「一人ひとりの子どもを伸ばす教育」の実現を図っていききたい。指導主事の校内研や訪問等の事業も、ご活用いただきたい。
三 一人一台端末を活用した学び(令和の学びの「スタンダード」)の一層の充実
ICT活用は、主体的・対話的で深い学びの実現、個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実の流れの中に位置付けているものである。また、学習指導要領の趣旨の実現を支える新

たな学びの基盤的ツールでもある。各学校に、一人一台端末が配備されたところだが、地域や学校によって、活用の仕方には、様々な実態があることが、各種調査によって明らかになった。県教委においては主に次の取組を進めていく。
・リーディングDXスクール事業」を通し、指導法や指導技術の創出とモデル化を図り、好事例を県内全域に横展開を図る。
・「情報活用能力体系表例」「教科指導等におけるICT活用」として、学校教育指導指針に示したところである。また、端末の家庭への持ち帰りについても、積極的な推進をお願いしたい。
各学校での授業実践を通して、効果的な活用につながるよう、後押しを進めていきたいと考えている。有効な場面を見極めながら、積極的な活用に向けた指導をお願いしたい。
終わりに
いわて幼児教育センター設置二年目となり、小学校入門期の在り方について、理解と周知を図って参りたい。今、学校には、多くの視点からの学びの改革が求められる、より機能的な学校経営が求められている。各学校の実態に応じて、校長先生方の豊かな経験に基づく戦略や方策をもって、どの子ども、確実に、そして豊かに育つ活力ある学校づくりに邁進いただきたい。

大会宣言

岩手県小学校長会は、本会結成以来、会員の英知と情熱を結集して、課題解決に主体的に取り組み、着実にその成果をあげてきた。

私たちは、東日本大震災発災後からの会員の総意「明日を拓く、岩手の絆」を決して忘れることなく、校長としての使命と職責の重大さを深く自覚し、「自ら未来を拓き、ともに生きる豊かな社会を創る、日本人の育成」を目標とする。「いわての復興教育」の視点を踏まえた学校づくりを推進し、県民の信託に応える責務がある。ここに、岩手県小学校長会会員の総力を結集し、次の事項の実現に全力を傾注することを、第六十一回総会の総意をもって宣言する。

確かな経営理念のもと、「生きる力」を育み、社会に開かれた教育課程の編成と、着実な実施、評価改善を行い、より一層創意に満ちた学校経営の充実を努める。被災地区の学校運営上の諸課題を的確に把握し、震災後十一年の経過を情報共有するとともに、震災の教訓を未来に語り継ぐ活動や、未来を担う「ひとづくり」を進めるため「いわての復興教育」を継続して推進する。

校長自ら研鑽に励むとともに、業務の改善による教育の質の向上を図り、「郷土を愛し、主体的・協働的に学び、夢と未来を拓く子どもを育てる学校経営」を積極的に推進する。多様な価値観の存在を認めるとともに、自他のかけがえのない生命を大切に、共によりよく生きようとする資質や能力の向上に向け、人間尊重の精神を培う教育を推進する。障がいのある子ども一人一人の教育的ニーズを把握しながら支援体制を充実し、通常の学級、通級による指導、特別支援学級での多様な学びの場の充実を図る。調査研究及び要望活動を組織的に推進し、新型コロナウイルス感染症に推し進め、GIGAスクール構想の推進など教育諸条件の改善・整備のための取組を推進する。広報活動の充実と会員相互の情報交流に努めるとともに、関係諸機関、団体との連携強化を図る。

令和五年四月二十一日 岩手県小学校長会 第六十一回 総会

# 地区校長会研究交流

## 「子どもたち一人一人に自立して社会で生きていくための基礎を育む」盛岡の教育

### 盛岡市小学校長会

#### 一 組織と活動、役割

盛岡地区には、小学校長会と中学校長会があり、通常はそれぞれで研修活動を行っている。市校長会議や小中合同の歓送迎会・懇親会、市教研ブロック研修会などを通して小・中の連携を図りながら情報共有を行ったり、見識を深め合ったりしている。

盛岡市小学校長会は、市内四十二校の校長によって組織され、年に六回の定例研修会を開催して校長としての資質・能力の向上を図るとともに、情報交換を密にし、会員相互の連携・親睦を深めている。県内には研修成果を共有する研究大会を年間計画に毎年位置付けている地区もあるが、本会では、従来から研究大会は実施していない。

また、本会は、岩手県小学校長会の推進母体であるという認識に立ち、その運営や活

動に様々な形で協力している。

例えば、研修部の場合、六名の研修部員全員が県の調査研究専門委員を兼務し、調査研究主題に基づく調査や結果の分析、報告書の作成の役割を担っている。

#### 二 研修の概要

定例研修会では、本会の活動方針に基づいて主題研修、一般研修、視察研修を実施し、校長としての資質・能力の向上を図るとともに、情報交換を密にし、会員相互の連携・親睦を図ることを目的に研修を計画・推進している。

#### (一) 主題研修

##### ア 研究内容

本年度は、来年度の二戸大会での発表に向けて、東北連小や県の研究課題・趣旨・視点を受けた二つの研究にチームで取り組んでおり、研究主

題は次のとおりである。

研究領域 【豊かな人間性】

◇研究主題

「自分を大切にすることを育む学校経営」～人権感覚の育成に資する校長の役割～

研究領域 【学校安全】

◇研究主題

「学校・家庭・地域で協働して子どもの安全を守る防災教育の推進について」

イ 研究チームの編成

昨年度、四十二名の会員を六グループに分け、三グループずつの二つのチームに再編成した。本年度はその中の A、Dグループが研究の担当となり、B、C、E、Fグループが協力して支えながら研究を進めている。

ウ 昨年度の研究

十月七日に県小・中学校長研究大会釜石大会で行った二つの発表内容を紹介する。

研究領域 【知性・創造性】

◇研究主題

「主体的・対話的で深い学び」を追求する職員集団の育成～職員を意識を向上させるための校長の働きかけの工夫～

◇研究概要

▼「主体的・対話的で深い学び」の共通理解のための校長としての働きかけ↓外部講師を生かした取組、校長

通信での共通理解、視察・研修会への参加

▼「主体的・対話的で深い学び」を追求しようとする職員の意識向上のための校長の働きかけ↓「夢を語る会」や「上田塾」の開催、研究主任を生かす取組

▼「主体的・対話的で深い学び」を目指す校内研究における校長の働きかけ↓校長からの助言の工夫

研究領域 【研究・研修】

◇研究主題

「参画意識をもち学校の教育力を高める職員の育成」

◇研究概要

▼教職員個々を生かす取組↓個々の強みを生かした校内研修の実施、時間調整

▼学校体制の整備と改善↓学びたい気持ちに応える OJT、校内人事と主任会議

▼組織マネジメント↓年代別の役割の明確化と意識化による学団運営

▼職員への配慮等、直接的な関わり↓合言葉の 3K（気にかけて、考えて、声かけて）による関係作り

#### (二) 一般研修

教育講話を毎回設定し、外部講師を招聘して現在の教育課題や学校経営上の諸問題、全国、県、市の動向などに関

する見識を深め、校長としての資質・能力の向上を図っている。本年度は、小学校における ICT 活用、コミュニケーション・スクールの運営と課題、生徒指導対応、保護者対応に関する講話を予定している。

会員による講話では、今年度末に退職する会員が「学校経営の考え方や実際」、「実践から得たもの・教訓等」、「後輩校長に伝えたい事」の視点から話すことになっている。

#### (三) 県外視察研修

令和二～四年度は中止であったが、グループ別研修を取り入れるなど、実施方法を工夫しながら、教育課題に対して先進的な取組を行っている学校や教育施設の視察研修を計画している。

#### 三 結び

校長会の活動もスリム化が課題である。研究や研修の充実と省力化を両立させる改善の工夫を一層重ねていきたい。

(盛岡市立城南小学校

菅野 亨)

### 新たな教育課題への対応

## 特別支援教育の充実を 目指した取組について

～「静かに困っている児童」への  
支援の在り方について～

岩手地区(滝沢第二小学校の実践から)

#### 二 本校特別支援教育の課題

全校児童四百七十四名のうち特別支援学級在籍は知的十三名、情緒十名、病弱二名の計二十五名である。

ただし、通常学級に在籍しているが、離席して教室から飛び出したり粗暴な行為をしたりする児童が複数いる。周囲への影響を考慮すると対応を優先せざるを得ない。しかし、その陰で授業中に「静かに困っている」児童も数多くいる。立ち歩いたり騒いだりしないので目立たないが、学年が上がるにつれて学習を中心に集団生活への困り感が大きくなっていく。そのような児童へ少しでも早く支援する体制づくりも大きな課題となっている。

また、保護者の中には、支援が必要であることは理解しているでも「特殊学級」と呼ばれていた時代の偏見が拭い去れず、在籍変更に大きな抵抗感があることも支援を進めるうえでの課題の一つである。

#### 三 課題解決のための取組

##### (一) 呼称の変更

全障がい種とも「岩姫学級」の呼称で統一されていたが、知的障がいと病弱・虚弱対象を「チャレンジ学級」、自閉症・情緒障がい対象を「ほつとルーム」と変更した。

##### (二) 算数教室の設置

学習を中心に困り感が大きい児童が個別に学習できる環境として「算数教室」という呼称の「校内通級」を試行。特別支援学級在籍児童と一緒に算数を中心に学習をしている。一定の課題を終えると気分転換のカードゲーム等で楽しみながら交流も深めている。

#### 四 取組の成果と課題

##### (一) 成果

「算数教室」を利用して自分のペースに合わせて個別に指導を受けることにより、一斉指導の中で「静かに困っている児童」が、生き生きとした表情で学習に向かっていくことが何よりの成果である。

そして、特別支援学級在籍児童と通常学級在籍児童が同じ学習課題に向かって共同学習を深めていることも、両者の充実感を高めている。

また、暗に差別用語的に使われることもあった従来の学級呼称を変更したことにより、支援を受けることへの抵抗感が低くなり、教育相談を進めることに大きく貢献している。

##### (二) 課題

算数以外の通級などの教育課程の編成の工夫や、個々の児童の状況を踏まえての自立活動の時間設定など、現状の学校体制の中で、一人ひとりの教育的ニーズに最も的確に応える指導を提供できるように、多様で柔軟な仕組みを整備することが今後取り組んでいかなければならない課題である。

#### 五 おわりに

発達障がい、愛着障がい、ゲーム障がい・・・様々な課題を抱えた児童の増加が懸念されている今、画一的な支援だけでは対応できない例が増えてきている。学校での様々な事例から、新たな教育課題へ対応するために学び続けていきたいものである。

多田 敢

(滝沢市立滝沢第二小学校)



「算数教室」での学習の様子

これらにより、保護者の特別支援教育に対する理解が深まり、前向きに教育相談が進

はじめに  
本校は、令和四年度より岩手地区特別支援教育研究会の事務局担当校として固定化することとなった。前年度まで担当校は市町単位での輪番制であったが、活動の充実発展及び引継ぎ等に係る業務削減のためである。  
これを機に、学校経営の柱の一つとして、特別支援教育の充実に向けた校内での教育支援体制の整備を推進することになる。

# 令和5年度

## 岩手県小学校長会役員

### 会長（1名）

盛岡地区 盛岡市立仁王小学校長 佐藤 淳

### 副会長（4名）

盛岡地区 盛岡市立上田小学校長 和田 英

紫波地区 紫波町立西の杜小学校長 佐藤 謙司

気仙地区 大船渡市立大船渡小学校長 佐々木 康人

宮古地区 宮古市立宮古小学校長 妻田 篤

### 会計監事（3名）

岩手地区 八幡市立柏台小学校長 藤野 高嗣

胆江地区 金ヶ崎町立金ヶ崎小学校長 最上 啓

久慈地区 久慈市立平山小学校長 西野 悟

### 常任理事（5名）

総務部 盛岡市立中野小学校長 前川 岳詩

行財政部 盛岡市立桜城小学校長 飯岡 竜太郎

研修部 盛岡市立杜陵小学校長 中村 幸子

広報・編集部 盛岡市立本宮小学校長 藤原 安生

生徒指導部 盛岡市立津志田小学校長 川村 憲弘

### 事務局（2名）

事務局長 前川 岳詩

常任書記 石亀 智美

### 理事

### 評議員

地区名	学校名	理事氏名	学校名	評議員氏名	学校名	評議員氏名
盛岡	厨川	本田 岳雄	大慈寺	武田 伸一	山王	紀 修
			大新	小島 正弘		
			岩手	御所		
紫波	西の杜	佐藤 謙司	不動	鷹 鸞 達		
花巻	若葉	本館 憲和	石鳥谷	吉池 真		
遠野	遠野	佐々木 美紀	鱒沢	栃内 秀茂		
和賀	黒沢尻西	佐々木 修	江釣子	門屋 健司		
胆江	江刺ひがし	早川 宏昭	常盤	城生野 成則	衣川	小野寺 明子
一関	東山	金里 徹	室根	佐藤 泰彦	長島	瀧野澤 公美
気仙	大船渡	佐々木 康人	吉浜	鎌田 慎	世田米	佐藤 拓巳
釜石	釜石	及川 靖浩	白山	市村 かおり		
宮古	宮古	妻田 篤	千徳	五十嵐 善彦		
久慈	久慈	向折戸 博昭	長内	小関 稔	種市	清野 直美
二戸	福岡	佐藤 純子	金田一	菅原 佳子	伊保内	富田 美奈子

# 専門部担当理事・専門委員等

(◎は部長)

## 総務部担当理事 (6名)

本田 岳雄 (盛岡・厨川)  
 佐藤 謙司 (紫波・西の杜)  
 佐々木康人 (気仙・大船渡)  
 妻田 篤 (宮古・宮古)  
 和田 英 (盛岡・上田)  
 ◎前川 岳詩 (盛岡・中野)

## 行財政部担当理事 (3名)

早川 宏昭 (胆江・江刺ひがし)  
 向折戸博昭 (久慈・久慈)  
 ◎飯岡竜太郎 (盛岡・桜城)

## 研修部担当理事 (3名)

堀切 茂行 (岩手・御所)  
 佐藤 純子 (二戸・福岡)  
 ◎中村 幸子 (盛岡・杜陵)

## 広報・編集部担当理事 (4名)

佐々木美紀 (遠野・遠野)  
 佐々木 修 (和賀・黒沢尻西)  
 金里 徹 (一関・東山)  
 ◎藤原 安生 (盛岡・本宮)

## 生徒指導部担当理事 (3名)

本館 憲和 (花巻・若葉)  
 及川 靖浩 (釜石・釜石)  
 ◎川村 憲弘 (盛岡・津志田)

## 行財政対策委員 (5名)

佐藤 均 (盛岡・河北)

金野 治 (盛岡・仙北)  
 伊藤 茂美 (盛岡・山岸)  
 竹花正太郎 (盛岡・北厨川)  
 大澤 滋 (盛岡・飯岡)

## 調査研究委員 (6名)

菅野 亨 (盛岡・城南)  
 杉本 光生 (盛岡・米内)  
 佐々木健一 (盛岡・太田東)  
 野崎 祐司 (盛岡・高松)  
 照井 大道 (盛岡・向中野)  
 梅野 展和 (盛岡・好摩)

## 広報・編集委員 (5名)

阿部 俊一 (盛岡・東松園)  
 西館 修治 (盛岡・松園)  
 佐藤 勤 (盛岡・見前南)  
 桑原 玲子 (盛岡・玉山)  
 八重樫深雪 (盛岡・渋民)

## 生徒指導委員 (5名)

菊地 力 (盛岡・都南東)  
 澁谷 浩 (盛岡・太田)  
 八木橋信也 (盛岡・月が丘)  
 齋藤 研一 (盛岡・羽場)  
 川越 浩子 (盛岡・巻堀)

## 全連小理事

佐藤 淳 (盛岡・仁王)  
 前川 岳詩 (盛岡・中野)

## 全連小人材育成委員会

川村 憲弘 (盛岡・津志田)

## 全連小健全育成委員会

飯岡竜太郎 (盛岡・桜城)

## 全連小75周年事業記念誌拡大編集委員

中村 幸子 (盛岡・杜陵)

## 全連小各部担当者

- (1) 対策担当者  
飯岡竜太郎 (盛岡・桜城)
- (2) 調査研究担当者  
中村 幸子 (盛岡・杜陵)
- (3) 広報担当者  
藤原 安生 (盛岡・本宮)

## 全連小総会代議員

本田 岳雄 (盛岡・厨川)  
 堀切 茂行 (岩手・御所)  
 佐藤 謙司 (紫波・西の杜)

## 東北連小理事

佐藤 淳 (盛岡・仁王)  
 和田 英 (盛岡・上田)

## 東北連小委員

- (1) 教育課程委員  
中村 幸子 (盛岡・杜陵)
- (2) 対策委員  
飯岡竜太郎 (盛岡・桜城)



理事会・評議員会合同会議



行財政部合同会議



総務部担当理事・地区事務局長合同会議

## 編集後記

総会において、会長に選出された佐藤淳会長は、アフターコロナに向けて、「再構築」と「発信」をキーワードとしてあげ、教育課題解決を図る学校経営の充実について述べました。そして、校長職の意義についてふれ、互いに学び合い、助け合い、本県の教育の発展のために努力することを力強く呼びかけました。

また、佐藤一男教育長は祝辞の中で、「そろえる教育」から多様性を認めつつ、一人一人の可能性を引き出す「伸ばす教育」への転換が求められていると述べられました。このことを踏まえ、子どもたちが本来持っている学びの力を信じて、その力を引き出せる環境を整え、教師は伴走者として子どもの学びを支え、「子どもを主語とした学び」を一層推進させてほしいと期待を寄せられました。

新型コロナウイルス対応の転換期にあたる本年度において、会員相互の連携を一層大切にしながら、子どもと教職員を大切にしながら学校経営の推進に向け、気持ちを新たにしました。

(担当 藤原 安生)